

『ホリスティック教育研究』総目次（第1号～第20号）

<第1号 1998年>

■インタビュー

佐藤学氏に聞く

吉田敦彦

■論文

シュタイナーの認識論の現代的射程

今井重孝

ホリスティック臨床教育学序論

中川吉晴

既存の教育諸学説へのホリスティック教育研究の寄与

—ジョン・ミラー理論の創造的継承のために—

吉田敦彦

■実践報告

わたくしの中のホリスティックな教育

—宮沢賢治と井上陽水、そして子どもたちとのつながり—

成田喜一郎

<第2号 1999年>

■論文

韓国の教育改革の現状

金頭宰

「ケアリング」—人間の根源的いとなみ—

堀内圭子

プロセスワークとホリスティック教育

手塚郁恵

■報告

北米でのホリスティックな教師教育の現況と課題

—多文化共生に向けたスピリチュアリティとアイデンティティの再定位—

吉田敦彦

<第3号 2000年>

■博士学位論文解題

東洋哲学とホリスティック教育

中川吉晴

■論文

シュタイナー教育とホリスティック教育

吉田武男

デューイ経験概念の射程—ミラーによるデューイ批判への応答的考察—

竹花由紀子

環境倫理への教育—「ケアリング」概念を手がかりに

高橋仁

■実践報告

看護教育におけるコミュニケーションの学習と学生の成長 守屋治代

■海外学会報告

クリシュナムルティ学校 30 周年ホリスティック教育会議に参加して 中川吉晴
メキシコ第 7 回ホリスティック教育国際会議の参加報告 吉田敦彦

<第 4 号 2001 年>

■論文

カウンセリング心理学とその関連領域における「生きがい」に関する事例研究の展望
— 間主観カウンセリングの視点から — 鶴田一郎
茶道のセラピーとしての側面の研究
カウンセリングからウインド・クロッシング (WINGED CROSSING: 有翼交差) へ 黒川五郎
ホリスティックな高校教育改革の試み— (闇) と (深さ) のイニシエーション— 菊池栄治
ホリスティック教育の存在論 中川吉晴
クリシュナムルティの教育理念とその実践 金田卓也

<第 5 号 2002 年>

■協会主催シンポジウム「魂へのアプローチ」基調講演記録

教育と魂 ジョン・ミラー
魂の視点 — 東洋思想の地平から — 西平直

■論文

カウンセリング心理学とその関連領域における「生きがい」に関する事例研究の展望
— 間主観カウンセリングの視点から — [第 2 回] 鶴田一郎
逸脱と不適応からみた学校像に関する実践的考察
— 「To have or to be」を視座として — 金澤清司
つながりを活かす学校図書館 足立正治

■海外研究動向

タイ・ホリスティック教育国際シンポジウムの報告 吉田敦彦
「第 3 回ホリスティック・ラーニング国際会議」参加報告 廣兼志保

■書評

吉田武男著『発想の転換を促す シュタイナーの教育名言 100 選』 竹村景生
山之内義一郎著『森をつくった校長』 今井重孝

<第6号 2003年>

■論文

- ノディングスにおけるケアリングの教育—解題『学校におけるケアへの挑戦』—
中川吉晴
- ホリスティック教育学者“伊藤隆二”の人間観の転換
—間主観カウンセリングへの道程—
鶴田一郎
- 純粋な贈与者「アドリアン」—C.フレネ『マチュール語録』より—
津田園女
- 日本におけるホリスティック教育のあゆみ 1996-2000
—『季刊 ホリスティック教育』誌の分析を中心に—
成田喜一郎

■海外研究動向：翻訳紹介

教育に対する三つの立場とホリスティック教育

John P. Miller／池田華子・吉田敦彦 訳

<第7号 2004年>

■論文

- イメージの領域で開かれてゆく「意識としての身体」
—絵を描いているときの内的体験の現象学的研究を通して—
松田佳子
- ブーバーの「現実」と「関係性」—ブーバー＝ユング論争を手がかりとして—
内原香織

■2003年度協会主催シンポジウム記録

できなさ・弱さがつなぐもの
鷺田清一・伊勢真一

■書評

松田高志著『いのち深く生きる教育』
竹村景生

■研究ノート

- アメリカにおけるニューエージ運動の源流とその特徴（前半）
村川治彦
- カウンセリング実践を支える「発達観」の検討
—臨床教育心理学者 伊藤隆二の見解を主軸に据えて—
鶴田一郎

<第8号 2005年>

■実践研究

- 日本のシュタイナー学校での国語授業—エポック授業『竹取物語』の実践から—
不二陽子
- 外国語学習における「気づき」のプロセス—ホリスティックな日本語教育—
天野郷子

ワークショップにおける「学び」のプロセス
ーキッズゲルニカのワークショップを事例としてー 伊藤恵里子

■研究ノート

「最も小さき者」と共に歩む教育
ー聖フランシスコの「平和の祈り」を出発点としてー 鶴田一郎
アメリカにおけるニューエージ運動の源流とその特徴（後半） 村川治彦

<第9号 2006年>

■論文

観想を实践する教育者の体験ー5人の教育者の変容に関する質的研究ー 野沢綾子
臨床看護実習において学生が変容する時ーホリスティック教育の観点からー 守屋治代
教育におけるコンパッションの意味ー灰谷健次郎『だれも知らない』批判をめぐってー 鶴田一郎
シュタイナー学校における祝祭と畏敬ーミカエル祭の分析を中心にー 瀨瀬好子

■報告

シュタイナー学校教員養成のプログラムとその特徴
ートロントの教員養成コースの事例からー D.ヒューズ・吉田幸恵
ホリスティックな教員養成
ーインドのリシヴァリー・スクールとネパールのニューホライズン・スクールー 金田卓也

<第10号 2007年>

■論文

エドワード・カンダにおけるホリスティックなソーシャルワーク論 五味幸子
スピリチュアルケアの4つの位相ー看護のホリスティックな理解に向けてー 実藤基子
ホリスティックな教育と芸術教育の諸概念 金田卓也
人間形成における開示性の問題ーハイデガーの思惟を端緒としてー 佐藤光友

■研究ノート

三谷隆正の思想と行動ー「信仰ー学問ー教育」に生きた生涯からー 鶴田一郎
「共生」という自然観について 濱田彩希

■実践報告

はじめて本を読むーシュタイナー学園の国語授業からー 不二陽子

■調査報告

トロントヴァルドルフスクール卒業生における進路調査 井口健一郎

<第11号 2008年>

■論文

キャリア概念におけるホリスティック・アプローチ
—持続可能な未来のためのキャリア概念— 野口由輝子
芸の学習プロセスとしての守破離—「道」に見るホールネス— 山口理沙
シルビア・プラスの詩における意味の拓け 柏原有紀子
「自己」と向き合う教育学 佐藤光友
三谷隆正と三人の師—内村鑑三・新渡戸稲造・岩元禎— 鶴田一郎
一人称の科学における一人称性と方法論についての—考察 西山智彦

■報告

「ホリスティックナースのためのシュタイナーを体感するドイツ・スイスの旅」報告レ
ポート 青木芳恵

<第12号 2009年>

■論文

シュタイナーのゲーテ『メールヒェン』論
—ゲーテ、シラー、シュタイナーの思想的邂逅— 井藤元
技術への問いと環境教育—ハイデガーの技術論を基調にして— 佐藤光友
教育方法としてのハコミ 小室弘毅
自己実現論における「関係性」の地平—ユング=ブーバー論争の再検討— 小木曾由佳

■研究ノート

三谷隆正の遺著『幸福論』について
—処女作『信仰の論理』とのかかわりにおいて— 鶴田一郎

■実践報告

持続可能な開発のための高等教育の一事例—聖心女子大学のESD実践から— 曾我幸代
ホリスティックな視点に立脚した専門職業教育について
—「ホリスティック医学とホリスティック教育の融合」— 今井佳江

<第13号 2010年>

■論文

- 秘密に関する一考察—シルビア・プラスの詩の分析から— 柏原有紀子
シュタイナー教育における「個性」概念—二重の個性と気質の関係— 河野桃子
ゲーテ『ファウスト』の神智学的解明—シュタイナー人間形成論の縮図— 井藤元
生と死をめぐる教育の再考 佐藤光友

■研究ノート

- 灰谷健次郎『兎の眼』を読む—教育と「生きがい」について— 鶴田一郎
「絶望」について考えるということ 若林新平
教育におけるスピリチュアリティ研究をめぐる最近の展開
中川吉晴・村上祐介・小畑タバサ

■実践報告

- 社会のニーズに応える介護福祉士養成について
—超高齢社会における介護福祉士のための「ホリスティックケア概論」導入について実
践報告— 今井佳江
異文化コミュニケーション論からホリスティック・コミュニケーション論へ
岩田好司

■翻訳

- 統合と変容のための教育—参与的アプローチの提案—
ホルヘ N.フェレールほか／中川吉晴 監訳・白居弘佳 訳

<第14号 2011年>

■論文

- 「個性化」と「宗教的経験」—ユングの宗教論に流れるジェイムズ思想— 小木曾由佳
イスラエル・パレスチナにおける二民族共生の課題
—ホリスティック・アプローチによる相互理解の可能性 吉村季利子
「死者との実存協同」の思想とグリーフケア 坂井祐円
学生から保育者への移行にともなう危機と専門的成長
—成長の契機としての「危機」の意義— 谷川夏実
人智学の基盤としてのゲーテ自然科学—自己認識への準備— 井藤元
自己変容の契機としての「身体」の構造
—野口整体における「愉気」をメルロ＝ポンティの「身体」の構造によって読み解く試み— 柄澤郁子

■研究ノート

- 闇に出会うードレスデンでの戦争体験者の癒しの考察 野沢綾子
再考: ホリスティックな教師とは—バランスのとれたあり方をめざして—
教育における「ケア」の力 天野郷子
三谷隆正の遺著『幸福論』を読む—処女作『信仰の論理』との対照を中心に— 佐藤光友
鶴田一郎

■実践報告

- 超高齢社会におけるホリスティックな人間福祉の提案
—手のぬくもりを伝えるセラピーがポジティブな人間福祉を構築する— 今井佳江
看護師養成校における美術の授業 辰巳豊

<第15号 2012年>

■論文

- 臨床へのまなざし—臨生から臨床を問い直す— 坂井祐円・小木曾由佳・井藤元

■実践報告

- ロシア・ウクライナから日本の多文化共生社会を考える授業
—包括的な平和教育からホリスティックな展開をめざして— 孫美幸
子ども達の感性を育む総合的な学習の時間
—公立学校におけるシュタイナー教育の試み— 佐々木浩江
レクリエーションを用いたホリスティックな教育実践報告 菊地大介

■研究ノート

- 真理へ向かう教育学 佐藤光友
三谷隆正の遺著『幸福論』を読む
—処女作『信仰の論理』との対照を中心に— (第2回) 鶴田一郎
カール・シューベルトの生涯と仕事
—シュタイナー学校での治療教育のパイオニア
エリザベス・フォン・キューゲルゲン / 【翻訳と解題】 瀬瀬好子

<第16号 2013年>

■論文

- 子どもと教師のためのオートエスノグラフィーの可能性
—「創作叙事詩・解題」を書くことの意味— 成田喜一郎
関係を生きる応答性—ヴェイユの「注意」に見る教育の臨床知— 池田華子

本来性 (authenticity) と即興芸術表現を伴った場における共感性・つながり感・元気感
(flourishing) 促進効果—大学教養科目大教室講義での試み—

尾崎真奈美・飯島有紀恵・小池ゆかり

「他なるもの」との邂逅と「自己の変容」

—『赤光』における茂吉の実相観入と自/他の断絶—

木村里美

いのちの視点を取り込んだ多文化共生授業における子どもの意識変容

—在日コリアンへの偏見や無関心を乗り越えるために—

孫美幸

身ぶりと言葉による「学び」—人形遣いのわざ習得場面における行為空間の記述—

奥井遼

■実践報告

保育者養成におけるホリスティック・カリキュラムに関する一考察

近藤千草

生活が中心にある保育実践報告—ある保育者の一考察—

菊地大介

■研究ノート

三谷隆正の遺著『幸福論』を読む

—処女作『信仰の論理』との対照を中心に— (第3回)

鶴田一郎

<第17号 2014年>

■特別寄稿

教育に関する質的研究における Arts-Based Research の可能性

金田卓也

■論文

関係を生きていく「ふくしびと」の提案—人間としての援助者の発見とその学び—

大山博幸

「しない」をする教育—身体心理療法ハコミの逆説の原理と技法から—

小室弘毅

「他者の死」への倫理的応答を触発する「教え」

—レヴィナス思想に見る「死」の主題化と「語り直し」—

福若真人

「葬儀」が生み出す協同性のゆくえ

坂井祐円

■研究ノート

人権学習をテーマにしたホリスティックな教員研修

—教員の人権に関わる自分史交流の実践から—

孫美幸

意識の変化が運動パフォーマンスに及ぼす影響

—実践で役立つ研究成果を目指して—

民内利昭

三谷隆正の遺著『幸福論』を読む

—処女作『信仰の論理』との対照を中心に— (第4回)

鶴田一郎

■書評

学校法人シュタイナー学園編

『シュタイナー学園のエポック授業—12年間の学びの成り立ち—』

井藤元

<第18号 2015年>

■巻頭言

創作叙事詩「刹那毎の岐路に立つ」

成田喜一郎

■論文

シュタイナー学校における道徳教育と芸術教育の連関

井藤元

ナイチンゲール看護論における芸術と科学

—ゲーテ=シュタイナー自然認識を媒介にして—

守屋治代

■実践報告

あらたな物語の生成と絵本制作

伊東久実

ESDへのグローバルな知と価値の創造—奈良教育大学附属中学校の実践事例から—

竹村景生

■研究ノート

生活そのものを教育へ—幼児体育の再考から—

菊地大介

多様な学びを保障することの課題と意義—その法制化へ向けた検討を通して—

森岡次郎・吉田敦彦

多様な学びの可能性—米国アイダホ州のホームスクール実践より—

野沢綾子

<第19号 2016年>

■論文

韓国民話における「異人」への眼差し

—韓国社会の多文化教育のあり方を考えるために

孫美幸

シュタイナー教育における「笑い」の意義—ユーモアエポックと「自由」

井藤元・不二陽子

「一打の鑿」の身体性—木村素衛の表現論における学びのダイナミズム

門前斐紀

チャールズ・テイラーにおけるアイデンティティ

—道徳的源泉としての「超越性」と「より繊細な」言語を巡って

奥本陽子

■研究ノート

変容をもたらすESDへの自由学園からの示唆

曾我幸代

■研究動向

アジア太平洋ホリスティック教育ネットワーク 第3回ラウンドテーブル会議

中川吉晴

<第20号 2017年>

■特別寄稿

協働エスノグラフィー 懐かしい未来との対話：ラダックの暮らしと私たち

成田喜一郎

■論文

ミュージック・サナトロジーの方法論—関係性と変容のアートとして— 里村生英
フォルメン線描における自然認識と芸術的創造

—シュタイナー教育の道徳的基盤— 井藤元

伝承民話集『聴耳草子』における「異人」たちと「多文化共生」

—日本社会における多文化共生教育のあり方を考えるために— 孫美幸

小中学校理科における素朴概念に関する実態—ものが溶けること—について—

木村和孝・杉本明子

■研究ノート

共生へと導く自己調和とそのモデル

—異文化の視点から考察する授業における「在り方」— 福田鈴子・砂子岳彦
つながりのスキル「コネクション・プラクティス」

—コスタリカ、アメリカ、日本における共感・洞察を用いた教育の取り組み—

野沢綾子

■研究動向

ホリスティック教育の国際会議（in マレーシア）参加報告

奥本陽子

■資料編

日本ホリスティック教育協会 20年の歩み

福若真人